

松戸市子ども・子育てに関するアンケート調査 報告書

令和 6 年 3 月

松戸市

【目 次】

第1章 調査の概要	1
第1節 調査の目的	2
第2節 調査対象・方法等	2
第3節 回収率	3
第4節 本報告書の留意点	4
第2章 調査の結果① <就学前児童保護者・小学生保護者・中学生保護者>	5
第1節 世帯の状況	6
第2節 子育て環境	35
1. 子育て相談、情報入手に関すること	37
2. 保護者の意識・悩み	44
3. 子ども・学校との関わり方	47
4. 子どもの学歴に関する認識	54
5. 少子化に関すること	58
6. 松戸市の子育て環境への評価	62
第3節 保護者の就労状況	68
第4節 育児休業の取得状況	86
第5節 教育・保育施設利用	92
第6節 地域の子ども子育て支援の利用状況	108
1. おやこ DE 広場等（地域子育て支援拠点事業）	109
2. 放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルーム（放課後児童健全育成事業）	113
3. 松戸市の子育て支援に関する事業	118
4. 休日等保育	127
5. 病児・病後児保育	129
6. 一時預かり	133
第7節 子どもに関する施策	138
第8節 自由回答	146
第3章 調査の結果② <小学生・中学生・高校生・若者>	155
第1節 属性	156
第2節 学習実態	161
第3節 生活実態	177
第4節 子ども意識	200
第5節 インターネットの利用状況	244
第6節 ひきこもり等に関する状況	250
第7節 子ども虐待に関する認識	258
第8節 松戸市への好感度	261
第9節 体験活動等の状況	264
第10節 支援制度の利用状況や効果等	280

第4章	調査の結果③ <転出世帯>	293
第1節	転出世帯の実態	294
第2節	転出世帯の属性	300
第3節	自由回答	303
第5章	調査票	305
第1節	就学前児童保護者調査票	306
第2節	小学生保護者調査票	331
第3節	中学生保護者調査票	351
第4節	小学生調査票	367
第5節	中学生調査票	380
第6節	高校生調査票	393
第7節	若者（18～24歳）調査票	406
第8節	転出世帯調査票	419

第 1 章 調査の概要

第1節 調査の目的

本調査は、「第3期松戸市子ども総合計画」の策定にあたり、本市の子ども・子育て世帯の生活実態や動向、ニーズ等を把握、分析することを目的に実施したものである。

第2節 調査対象・方法等

調査対象者	調査方法	調査期間
①就学前児童保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・郵送調査+インターネット回答 ※紙の調査票に二次元コードを印刷し、紙でもインターネットでも回答できる形式。(①、④、⑥は同じ手法) ・対象者は、令和5年9月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出 	令和5年10月12日 ～10月31日
②小学5年生及びその保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット回答 ※学校経由で二次元コードを印刷した案内を配布。親子別に回答し、回答後にマッチングし集計・分析をする。(②、③は同じ手法) ・全数調査 	令和5年10月12日 ～10月31日
③中学2年生及びその保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット回答 ・全数調査 	令和5年10月12日 ～10月31日
④高校2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・郵送調査+インターネット回答 ・対象者は、令和5年9月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出 	令和5年10月20日 ～10月31日
⑤若者(18～24歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット回答 ※二次元コードを印刷したはがきを送付し、インターネットで回答する形式。 ・対象者は、令和5年9月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出 	令和5年10月20日 ～11月7日
⑥市外に転出した就学前児童保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・郵送調査+インターネット回答 ※柏市・流山市への転出者を対象とする。 ・対象者は、過去5年間に本市から転出した子育て世帯を住民基本台帳から抽出 	令和5年11月2日 ～11月22日

第3節 回収率

調査対象者		配布数	有効回答数	有効回収率	親子のマッチングができた数
①就学前児童保護者		3,000	1,815	60.5%	
②小学5年生及びその保護者	小学生	3,810	1,184	31.1%	577
	保護者	3,810	863	22.7%	
③中学2年生及びその保護者	中学生	3,583	632	17.6%	300
	保護者	3,583	489	13.6%	
④高校2年生		1,000	293	29.3%	
⑤若者(18～24歳)		1,000	167	16.7%	
⑥市外に転出した就学前児童保護者		500	204	40.8%	

第4節 本報告書の留意点

- (1) 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。したがって合計が100.0%を上下する場合もある。
- (2) 基数となるべき実数(回収者数)は、“全体(n=〇〇)”として掲載し、各比率は回答者数を100.0%として算出した。なお、「n」はnumber of caseの略であり、設問の回答数である。
- (3) 1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい設問では、各回答の合計比率が100.0%を超える場合がある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 標本誤差に関して：

無限母集団が仮定され、サンプル数が比較的大きい標本調査では、母集団比率の95%信頼区間は次の不等式で与えられる(同様の標本調査を100回実施したとき、95回程度は母集団比率がこの区間に含まれる)。

$$p - 1.96\sqrt{p(1-p)/n} \leq p_0 \leq p + 1.96\sqrt{p(1-p)/n}$$

(p_0 : 母集団比率、 p : 標本比率、 n : サンプル数)

したがって、標本誤差($p_0 - p$)については、95%の確率で次の不等式が成立する。

$$-1.96\sqrt{p(1-p)/n} \leq p_0 - p \leq +1.96\sqrt{p(1-p)/n}$$

例えば、サンプル数(n)が2,000、調査結果(p)が30%のとき、標本誤差は、±2.0%の範囲内にあるものと推測される(下表参照)。

各サンプル数及び標本比率における標本誤差の範囲(信頼水準95%)

n \ p	10%・90%	20%・80%	30%・70%	40%・60%	50%
3,000	±1.1%	±1.4%	±1.6%	±1.8%	±1.8%
2,000	±1.3%	±1.8%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,500	±1.5%	±2.0%	±2.3%	±2.5%	±2.5%
1,000	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
500	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
300	±3.4%	±4.5%	±5.2%	±5.5%	±5.7%
100	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%